

# 基幹型共同研究プロジェクト 「日本語レキシコン — 連濁事典の編纂」 英語版の進捗状況

リーダー氏名 (ティモシー・J・バンス)

## 研究の概要

本プロジェクトの最終目的は、連濁に関連するあらゆる現象を可能な限り明らかにする事典を編纂することである。

本共同研究は、定期的で開催する研究発表会および執筆打ち合わせ会を中心に推進している。研究発表の内容をそのまま事典に取り入れるわけではなく、スタイルの統一性を保証するために、プロジェクト・リーダーは各寄稿者と協力する。なるべく多くの言語学者に本プロジェクトの成果が利用できるように、日本語版と英語版に分割し、別々に出版する予定である。

事典の各章の担当を決め、ドイツのMouton社から英語版を出版する予備的合意書を取った。「Perspectives on Rendaku: Sequential Voicing in Japanese Compounds」と仮称されている。日本語版は後に出版する予定である。

連濁研究に役立つ語彙のデータベースも作成し、公開している。

## 英語版の各章で 取り上げる課題

### ① 連濁の基本的な記述

担当者: ティモシー・J・バンス (国立国語研究所)

- ▶ 連濁の定義
- ▶ 音韻変化による音声的な不透明性
- ▶ 連濁と仮名表記



### ② 連濁の由来と史的变化

担当者: 高山 知明 (金沢大学)

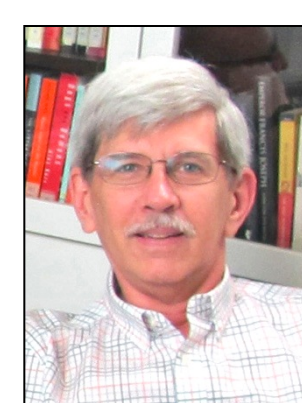
- ▶ 濁音の音声的具現
- ▶ 連濁起源と鼻音、鼻濁音との関係
- ▶ 連濁史と文字史



### ③ 分節的な要因

担当者: ティモシー・J・バンス (国立国語研究所)

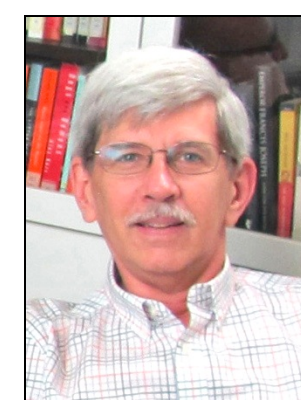
- ▶ ライマンの法則
- ▶ ローゼンの法則
- ▶ 子音別の連濁率



### ④ 連濁と語彙層

担当者: ティモシー・J・バンス (国立国語研究所)

- ▶ 和語
- ▶ オノマトペ (擬声語・擬態語)
- ▶ 漢語
- ▶ 外来語



### ⑤ 連濁と形態・意味構造

担当者: 大野 和敏 (マカオ大学)

- ▶ 右枝条件
- ▶ 畳語
- ▶ 並列複合語
- ▶ 用言要素



### ⑥ 連濁とアクセント

担当者: 太田 聡 (山口大学)

- ▶ 連濁とアクセントの相互関係
- ▶ 人名や地名のパターン



### ⑦ 連濁と理論言語学

担当者: 三間 英樹 (神戸市外国語大学)

- ▶ 連濁と有声性
- ▶ 義務的音調曲線原則 (OCP)
- ▶ 連濁と最適性理論 (OT)



### ⑧ 連濁と心理言語学研究

担当者: 川原 繁人 (慶應義塾大学)

- ▶ ライマンの法則とローゼンの法則
- ▶ 前部要素の影響
- ▶ 類推の拠り所
- ▶ レキシコンのパターンか、「音韻文法」か



### ⑨ 連濁の方言差

担当者: 宮下 瑞生 (モンタナ大学)

- ▶ 調査の方法と結果
- ▶ 前鼻音を保った北東北方言の分析
- ▶ 琉球列島の言語



### ⑩ 連濁の習得

担当者: 中澤 信幸 (山形大学)

- ▶ 日本語を母語とする幼児
- ▶ 日本語学習者
- ▶ 言語障害者



### ⑪ 通言語的観点から

担当者: ローランス・ラブリューヌ (ボルドー大学)

- ▶ 複合語標識
- ▶ 韓国語
- ▶ バスク語



### ⑫ 連濁研究史

担当者: 鈴木 豊 (文京学院大学)

- ▶ 国学者の言及
- ▶ ライマンの論文と小倉進平の批評
- ▶ 国内の研究進捗 (特に20世紀前半)
- ▶ 海外での研究 (20世紀後半から)



### ⑬ データベースの解説

担当者: マーク・アーウィン (山形大学)

- ▶ 「連濁データベース」の構築
- ▶ 利用法



### ⑭ 参考文献一覧表

担当者: マーク・アーウィン (山形大学)

- ▶ 包括的なリスト
- ▶ アノテーション(注釈)付き



## 関連活動

### 窪園班と共催した国際シンポジウム

2011年12月10~14日 (京都大学)  
International Conference on Phonetics and Phonology

2012年10月12~14日 (国立国語研究所)  
22nd Japanese/Korean Linguistics Conference

2013年1月25~27日 (国立国語研究所)  
International Conference on Phonetics and Phonology

2013年12月20~22日 (国立国語研究所)  
International Conference on Phonetics and Phonology

### 第8・第9回NINJALチュートリアル 「連濁の言語学」

第8回: 2012年7月26日 (東京)

第9回: 2012年8月9日 (仙台)



## 主要な成果物

[バンス] Vance, Timothy J. "If Rendaku Isn't a Rule, What in the World Is It?" *Usage-Based Approaches to Japanese Grammar: Towards the Understanding of Human Language*, ed. by Kaori Kabata and Tsuyoshi Ono. John Benjamins. (掲載決定)

[アーウィン] Irwin, Mark. "Rendaku Lovers, Rendaku Haters, and the Logistic Curve." *Japanese/Korean Linguistics* 22, ed. by Mikio Giriko, Kyoko Kanzaki, Naonori Nagaya, Akiko Takemura, and Timothy J. Vance. CSLI. (掲載決定)

[バンス・宮下・アーウィン] Vance, Timothy J., Mizuki Miyashita, and Mark Irwin. "Rendaku in Japanese Dialects That Retain Prenasalization." *Japanese/Korean Linguistics* 21, ed. by Seunggho Nam, Heejeong Ko, and Jongho. CSLI. (掲載決定)

浅井 淳. 「連濁生起の傾向と軟音化」『国立国語研究所論集』7 (掲載決定).

[アーウィン] Irwin, Mark. "Rendaku across Duplicate Moras." 『国立国語研究所論集』7 (掲載決定).

[太田] Ohta, Satoshi. "On the Relationship between Rendaku and Accent." *Segmental Variation in Japanese*, ed. by Jeroen van de Weijer and Tetsuo Nishihara, 63-87. Kaitakusha. (2013年)

[川原] Sano, Shin-ichiro and Shigeto Kawahara. "A Corpus-Based Study of Geminate Devoicing in Japanese: The Role of the OCP and External Factors." 『言語研究』144:103-118. (2013年)

ティモシー・J・バンス, 宮下瑞生, マーク・アーウィン, リチャード・ジョルダン. 「紅花と河北町方言」『アジアの人びとの自然観をたどる』木部暢子・小松和彦・佐藤洋一郎 (編), 185-192. 勉誠出版. (2013年)

[アーウィン] Irwin, Mark. "Rendaku Dampening and Prefixes." 『国立国語研究所論集』4:27-36. (2012年)

[川原] Kawahara, Shigeto. "Lyman's Law Is Active in Loanwords and Nonce Words." *Lingua* 122:1193-1206. (2012年)

[バンス] Vance, Timothy J. "Benjamin Smith Lyman as a Phonetician." *Journal of Japanese Linguistics* 28:31-41. (2012年)

[川原] Kawahara, Shigeto. "Aspects of Japanese Loanword Devoicing." *Journal of East Asian Linguistics* 20:169-194. (2011年)

[川原] Kawahara, Shigeto. "Japanese Loanword Devoicing Revisited: A Rating Study." *Natural Language and Linguistic Theory* 29:705-723. (2011年)